

平成28年3月24日

電力広域的運営推進機関

再生可能エネルギー発電設備の出力抑制に関する検証結果の公表について

九州電力株式会社が平成28年2月21日（日）に実施した、種子島における再生可能エネルギー発電設備の出力抑制について、当機関は、送配電等業務指針第154条第2項に基づき、出力抑制に関する給電指令の妥当性を検証したので、下記のとおり、その結果を公表いたします。

また、検証により、出力抑制を実施した理由が確認できたため、合わせて公表いたします。

記

1. 検証内容

- ①抑制指令を行った時点で予測した離島の需給状況
- ②下げ代確保の具体的内容
- ③再エネの出力抑制を行う必要性

2. 検証結果

検証内容の①～③それぞれの項目について検証した結果、今回の出力抑制の指令は、適切であると判断する。

なお、平成27年5月5日に九州電力が行った出力抑制を検証した際に指摘した、以下の改善点については、需要想定精度向上は実施済みであり、今後も引き続き改善に向けた取り組みを実施していくこと、太陽光出力想定精度向上は検討中であるため、早期に導入することを期待するとした。

(改善点)

- ・需要想定の方なる精度向上
- ・太陽光発電の最大出力想定および出力低下想定の方度向上

3. 出力抑制を行った理由

当日の需給状況から、下げ代不足が見込まれたため。

※理由については、当機関の系統情報公開サイト（OASIS）において公表している、「電気事業者による再生可能エネルギーの出力抑制に関する情報（出力抑制実績）」にも記載します。詳細については、4. 添付資料を御参照ください。

4. 添付資料

再生可能エネルギー発電設備の出力抑制の検証結果

～平成28年2月21日 種子島（九州電力）～

以上